

塑性加工の総合専門誌

プレス技術

7

2017
Vol.55
No.8

PRESS WORKING

特集 今こそものにするハイテン材590、780、980MPa

巻頭インタビュー 日進精機(株) 代表取締役社長 伊藤敬生氏「金型技術を核に多彩なプレス加工技術でグローバル化を推進」

好評連載 高品位プレス成形品を生み出す寸法・形状測定&分析・検査の基礎技術



高性能フープ材突合せ溶接装置

MFW-150FT

フープウェルダ－150mm幅対応タイプ



株式会社 ムラタ溶研

第30回竹内記念・ニュー型研サロン 競争力を生むプレス金型メンテナンスなどを講演

竹内型材研究所

(株)竹内型材研究所(神奈川県伊勢原市、内山真司社長、0463-93-7771)は「第30回竹内記念・ニュー型研サロン」を5月13日に東京都港区の日立金属・高輪和彊館で開いた。竹内型材研究所が主催していた型材研究会から続く親睦団体の勉強会で、今回は会員の(株)西野精器製作所の北塚裕氏、大和田政博氏、能率機械製作所の大山秀夫氏、西野プレスコンサルタント事務所の西野利行氏の講演が行われた。

新HPと板金技能フェアで技術アピール

北塚氏と大和田氏は「総合試作(ゴマ粒~バスケットボールサイズ)No.1を目指す当社の最近の情報発信について~新HPと板金技能フェア出展~」がテーマ。新たなHPの作成や職業訓練法人アマダスクールが主催する「板金技能フェア」への出展を通じて自社の情報発信と技術力の向上を図る取組みを紹介した。

試作メーカーである同社はコンサルタントの指導を受けつつ、半年余りで作成。2015年6月からスタートし、月1回のコンテンツの追加やメールマガジンの発行などを行うことで、引き合いが増加。HPによる受注は1年目20万円だったものが現在は同100万円(新規20社)まで拡大しており、従来経験のないような加工案件の問い合わせもあり、レベルアップにつながっている。

また、板金技能フェアへは11年から16年まで連続出品し、すべて入賞を果たしてきた。技術アピールと自社の技術力向上が目的で16年の「やっとなる手」では自分の手を見ながら3次元CADでソリッドモデルを作成し、多面体を表現できるように部品を分割して曲げ加工を行い、隙間なく組立、全溶接を施すなど総合力の高さを示しており、今後もさらに高い賞を目指して取組む考えだ。

LEM製品の開発思想

大山氏は「能率機械製作所という会社は、何をやってきたのか???そして今、何を狙っているのか??? (その1)」をテーマに講演。独自の高速プレスを生み出してきた能率製作所のモノづくりの思想と実践を半世紀以上に渡って同社でプレス機械設計製作に携わってきた大山氏が自らの思い出と共に紹介した。創業者の大本重吉氏から現在に至るまでに歴史を踏まえ、各時期を代表するLEMブランド製品の特徴と開発の背景などを解説。2代目の大本恵嗣社長のモノづくりの精神にも触れLEMブランドのプレス精度を検証するために数字だけでなく「見える化」にいち早く取組み、数値解析の採用を推進。高速から超高速を目指し、アンチフリクションベアリングを積極的に採用したことなど現在のLEM製品を生み出した開発の裏側なども披露した。

また、西野氏は「なぜプレス金型メンテナンス書籍の発行なのか」をテーマにプレス金型メンテナンスの重要性について講演。日本航空電子工業(株)でプレス金型に長年携わってきた経験を踏まえて最近の金型メンテナンスの問題点と改善に向けたポイントを紹介した。メンテナンスは金型設計の段階から始まっており、「メンテナンスを考慮した金型構造、金型図面に戻すメンテナンス、論理的なメンテナンス」の重要性を示唆。メンテナンスで品質力、技術力を向上させ競合との差別化を図ることを強調した。

プレス金型メンテナンス

また、西野氏は「なぜプレス金型メンテナンス書籍の発行なのか」をテーマにプレス金型メンテナンスの重要性について講演。日本航空電子工業(株)でプレス金型に長年携わってきた経験を踏まえて最近の金型メンテナンスの問題点と改善に向けたポイントを紹介した。メンテナンスは金型設計の段階から始まっており、「メンテナンスを考慮した金型構造、金型図面に戻すメンテナンス、論理的なメンテナンス」の重要性を示唆。メンテナンスで品質力、技術力を向上させ競合との差別化を図ることを強調した。

